

本当のプロフェッショナルを見よ

寺島実郎から長大生へのメッセージ



昨年のリレー講座において
講演者にトークセッションを挑んだ学生たちへ、
最終回の講演者であり、リレー講座の生みの親でもある
寺島実郎さんから熱いメッセージが届きました

学生たちの問題意識に 期待したい

私は、このリレー講座は初回から継続的に参画しながら向き合ってきたので、長崎大学のポテンシャルをよく理解している。実際に話してみても思ったのは、みんな非常に積極的なものごとに参加しようとしていることだ。そういう視点は大事にしてほしいと素直に思う。

リレー講座の狙いは、「気づき」。語りかけてくる人のメッセージや、その価値観のなかに、「おや？」というヒントを感じとって自分自身で吸収していくのが、この種の講座に参加する意味である。出来上がってしまった固定観念で話を聞く人は、吸収できない。ど

思える、張り倒されるような衝撃を経験していないのだから、激しい怒りや問題意識がない。世の中や時代をなめている。

もうひとつは、SMAPの『世界に一つだけの花』が伝えている価値観から、早く脱却してほしいということ。自分は一人ひとり輝く花なんだよ、と個性化教育でおだてられて大人になる。しかし会社入ると「お前のような花なんかどうでもいい」と言われ、バードをなぞるような仕事に絶望して「ボキン」と折れて、三年間で約三割の新社人が仕事を辞めてしまうという。真実は、踏みつけられてから、なにくそ魂で身に付けていったものが本当の「花」だ。要は甘さからどう脱却していくか。人間だれしも、太刀持ち露払い付きで生きていけるわけではない、本能的に「なにくそ」と思って立ち向かっていくこそが、生き延びていくのだ。会社の部品で終わらせない人生を目指すならば、踏みつけられるストレスに耐える力を身に付けなければいけない。

んな人の話にも、ひとかけらの価値を感じ取って、ノートの片隅に書き取る。それを漫然と受け止めるだけでなく、学生としてなんとか理解して自分たちの疑問をぶつけていく、その根性と問題意識は大切である。

大学は無風状態で 保育器のなかと同じ

今回の学生トークセッションでは、学生からある質問が投げかけられた。ちょうど衆院選で政権交代した直後というところもあり、政治についてもいろいろ思うところがあったらしい。「今の日本への満足度は何点か?」。それで私は即座に「五〇点以下だ」と答えた。

なぜならば、今の日本の貧困化が進んでいることはあきらかだから。年取二〇〇万円以下の人が三十四%、労働人口の三人に一人以上が、時給千円で必死に働いても二〇〇万円しか収入がないという現実。これでは若い人たちが結婚したり家族を養ったりできない、つまり未来に希望を持てるわけがない。日本の足元である「この国は何で飯を食っていくか」ということを、政治家の責任と言いつけるのではなく、我々自身が考えなければいけない。そういう大事なときにさしかかっている。

学生たちは私の話を驚きをもって受け止めた。後で聞いた話では、彼らのなかでの答えは、満足度五〇点以上が七割だったらしい。大学というのは無風状態で、いつてみれば保育器のなか



と同じ。だから学生は現状に対してあまり不満を持っていないらしい。深い問題意識を持って世界を見渡せば、とても五〇点以上とは言えないだろう。今の学生たちのもつとも不幸なことは、まっとうな大人と出会っていないということだと思ふ。ご両親や先生をふくめて、今の大人は右肩上がりの高揚感ではない、右肩下がりの時代の人々。「この人を越えていくことが自分の人生だ」と

そういう意味では、リレー講座のような学びの機会が「まっとうな大人って何なのだろう」という疑問に向き合う絶好の機会となるのではないか。世の中に向かって戦っている人、発信している人、テーマを持って本気で生きている人。その人たちの存在を受け止めるチャンスなのである。

プロジェクトの学生たちは、次はリレー講座に誰を招くか、企画から参画してみたいという話もあると聞いた。実際にやってみたらいい。そうすればわかることがきっとあるはずである。本当のプロフェッショナルは時間とお金に対して大変厳しい。なぜならば、それまで時間を刻む思いで自身の力を練磨してきたため、それを誰かに与えるには、それなりの手ごたえと納得感を求めるものだからだ。しかし何事もトライするのはいいこと。問題意識を持って、なにくそ魂を忘れてはならない。

長崎大学は、それが許される恵まれた大学なのではないだろうか。



てらしまじつろう
日本総合研究所理事長・多摩大学学長。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了後、三井物産入社。三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授を経て、現職。著書に「世界を知る力 日本創生編」(PHP新書)。

長崎大学リレー講座 学生トークセッション



第1回 講師 マイケル・グリーン



第2回 講師 為末 大



第3回 講師 北城格太郎



第4回 講師 原田泳幸



第5回 講師 黒川 清



第6回 講師 寺島実郎